

7月のほけんだより

社会福祉法人春献美会 いずみ保育園 令和4年7月号

7月の保健目標

- ・夏を元気に過ごす
- ・暑さに負けない体を作る

7月の保健行事

- 12日(火) 乳児健診
- 26日(火) 乳児健診

夏の青空が広がる季節がやってきました。夏は日が落ちるのが遅く、外で活動できる時間が長くなります。暑さに負けず、元気に過ごすためには熱中症対策が必須です。

日中は、子どもたちの安全を第一に活動を行っています。屋外活動では暑さ指数(WBGT)を確認しながら、活動時間を短縮しています。また、室内でも換気を十分に行いながら、エアコンを使用しています。

ご家庭でも熱中症対策として睡眠と朝食で生活リズムを整えていただくよう、ご協力をお願いします。朝食から摂る水分・塩分も熱中症予防にはとても重要です！



熱中症予防とコロナ対策

今年5月下旬に厚生労働省より、子どものマスクの着用について、別紙のとおり案内がありました。当園では、「感染症を予防しながら、熱中症を防ぐ」ことを夏の課題として、別紙を参考に安全面に配慮して活動を行っています。

一方で、市内の保育施設では陽性者が発生している現状があります。そして濃厚接触者の特定要件には変更がないため、園内で陽性者が発生した場合はマスクを着用していなければ濃厚接触者となり、発生の状況によっては休園措置となってしまうことがあります。マスクを外す機会が多くなることで、濃厚接触者となる可能性は上がることをご理解いただければと思います。

保育園では、一律に子どもにマスク着用をすることは求めています。場面や個々に応じた対応を行っております。お子さんにマスクをつけさせたくない場合は、その旨担任までお伝えください。

子ども同士の距離を十分に取ることや、手洗いの指導等感染症対策を十分に行い、安全に夏季を過ごせるよう、対策を取っていきます！

とびひと診断されたら・・・

夏に流行しやすい『とびひ』。汗をかいてあせもができたり、虫刺されが増える時期に多くみられます。人に感染させることもありますので、症状が見られたら早めに受診をお願いします。

保育園での対応

1. じゅくじゅくした患部はガーゼなどで覆ってください。(患部が広範囲な場合は、医師に登園してよいか確認してください)
2. 保育園でのシャワーは行いません。ガーゼがはずれた場合の、予備のガーゼやテープなどを持参してください。

おう吐等で汚れた衣類の返却について：おう吐等があり、他のお友だちの衣類にかかってしまうケースがあります。そのような場合には、おう吐等があったお子さんが、お友だちの衣類を持ち帰ってお洗濯をしていただくこととなります。感染拡大防止のためご理解・ご協力をお願いします。

ほけんニュース

どうしたらいいの？

蚊の予防と対処法

蚊に刺されたらどうなるの？

子どもは新陳代謝が活発なので、虫に刺されやすく、肌が弱いと症状が強く出てしまうことがあります。蚊に刺された時の皮膚反応は、刺されてすぐに赤くなってかゆみが出る場合と、刺されて1~2日で赤くなってかゆみが出る場合があります。新生児期はアレルギーが成立していないために無反応ですが、幼児期までは両者の反応が出るといわれています。実際には個人差があります。



予防のためにできること

虫よけ剤の使用



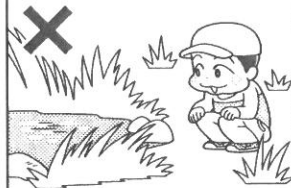
虫よけ剤は、必要に応じて適切に使用しましょう。

肌の露出を少なく



虫の多いところに行く時は、長袖・長ズボンを着せます。

やぶや草むらに近づかない



蚊の発生源や多い場所には、近づかせないようにします。

虫よけ剤の注意事項

ディートという成分が含まれる場合は、顔には使用しないこと、6か月未満の乳児には使用しないこと、6か月以上2歳未満は1日1回、2歳以上12歳未満は1日1~3回までと、使用が制限されています。イカリジンという成分は、年齢の使用制限はありませんが、ディート同様、目に入れたり、飲んだり、なめたりさせないようにします。

蚊に刺された時の対処法

蚊に刺されてしまった場合は、刺されたところを水で洗い流して清潔にします。かゆみを軽減させるためには、水でぬらしたタオルや保冷剤などを使用して、冷やすことがおすすめです。必要に応じて、かゆみ止めを塗ります。

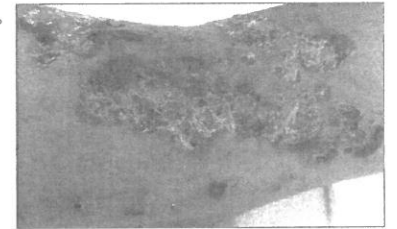
刺されたところをかきこわして細菌に感染してしまうと、とびひになることがあります。



とびひ(伝染性膿痂疹)

とびひ(伝染性膿痂疹)は、細菌による皮膚の感染症で、水ぶくれやかさぶたができます。接触によってうつり、火事の飛び火のように広がることから、こう呼ばれます。あせもや虫刺されなどを引っかいたり、転んだ傷に二次感染を起こしたりして発症します。また、鼻を触る癖があると、鼻の周囲からとびひが始まることもあります。

とびひの写真



■予防について

とびひを予防するためには、入浴して皮膚を清潔にし、手洗いをしっかりとさせることが大切です。皮膚をかきむしって傷つけないようにするために、爪を短く切りましょう。また、とびひの原因になる細菌は鼻の中にたくさんいるので、鼻をいじらないように伝えます。

登園してもよい？

基本的には、医師の診断・治療を受けて、とびひの部分をガーゼや包帯できちんと覆っていれば、登園することができます。しかし、とびひが多発していたり、広範囲にわたっていたりする場合は、休ませる方がよいといわれています。

プールに入ってもよい？

プールや水泳は、とびひの症状が悪化したり、友だちにうつしたりする恐れがあります。そのため、完全に治るまでは禁止です。

子どものマスク着用について



人との距離（2m以上を目安）が確保できる場合
においては、マスクを着用する必要はありません。
また、就学前のお子さんについては、
マスク着用を一律には求めています。



就学児について

（小学校から高校段階）

マスク着用の必要がない場面



屋外

- ・人との距離が確保できる場合
 - ・人との距離が確保できなくても、
会話をほとんど行わないような場合
- ＜例＞離れて行う運動や移動、
鬼ごっこなど密にならない外遊び
＜例＞屋外で行う教育活動（自然観察・写生活動等）

屋内

- ・人との距離が確保でき、
会話をほとんど行わないような場合
- ＜例＞個人で行う読書や調べたり考えたりする学習

学校生活

屋外の運動場に限らず、
プールや屋内の体育館等を含め、
体育の授業や運動部活動、登下校の際
※運動部活動において接触を伴う活動を行う場合には、各競技団体が作成するガイドライン等を確認しましょう
※活動中以外の練習場所や更衣室等、食事や集団での移動を行う場合は、状況に応じて、マスク着用を含めた感染対策を徹底しましょう

高齢の方と会う時や病院に行く時は、マスクを着用しましょう。

保育所・認定こども園・幼稚園等の 就学前児について

2歳未満

マスクの着用は推奨しません。

2歳以上の就学前の子ども

他者との距離にかかわらず、
マスク着用を一律には求めています。
マスクを着用する場合は、
保護者や周りの大人が子どもの体調に十分注意した上で着用しましょう。



気をつけるポイント

- ▶ 夏場は、熱中症防止の観点から、マスクが必要な場面では、マスクを外すことを推奨します。
 - ▶ マスクを着用しない場合であっても引き続き、手洗い、「密」の回避等の基本的な感染対策を継続しましょう。
- ※その他地域の状況に応じて、講じられている対策がある場合、それを踏まえ対応をお願いします。





屋外・屋内でのマスク着用について

- マスク着用は従来同様、基本的な感染防止対策として重要です。
一人ひとりの行動が、大切な人と私たちの日常を守ることに繋がります。
- 屋外では、人との距離（2m以上を目安）が確保できる場合や、距離が確保できなくても、会話をほとんど行わない場合は、**マスクを着用する必要はありません。**
- 屋内では、人との距離（2m以上を目安）が確保できて、かつ会話をほとんど行わない場合は、**マスクを着用する必要はありません。**



【屋外】

距離が確保できる

距離が確保できない

会話をする

マスク必要なし



マスク着用推奨



会話をほとんど行わない

マスク必要なし



公園での散歩やランニング、サイクリングなど

マスク必要なし



徒歩や自転車での通勤など、屋外で人とすれ違う場面

【屋内】

距離が確保できる

距離が確保できない

会話をする

マスク着用推奨



※十分な換気など感染防止対策を講じている場合は外すことも可

マスク着用推奨



会話をほとんど行わない

マスク必要なし



距離を確保して行う
図書館での読書、芸術鑑賞

マスク着用推奨



通勤ラッシュ時や人混みの中では**マスクを着用しましょう**

高齢の方と会う時や病院に行く時は、**マスクを着用しましょう。**
体調不良時の出勤・登校・移動はお控えください。



夏場は、熱中症防止の観点から、屋外でマスクの必要のない場面では、マスクを外すことを推奨します。

マスクに関するQ&A

